

著允山牧

砲火の裏に踊る

暗のうば大女
躍

10センチ

特 243

270



* 0056136000 *

2

0056136-000

特 243-270

砲火の裏に踊る

牧山允・著

東亜書房

昭和 12

AJB

この著作物は、著作権者不明のため、
第67条の規定に基づき、平成12年
付けで文化庁長官の裁定を受け使用す

特 243
270

牧山允著



の裏に踊る

東京東亞書房



女スパイの暗躍 目次

大奈翁も困つた	(五)
「女郎蜘蛛」の怪	(五)
堂々たる伏魔殿	(八)
「罪惡の下水溜り」	(八)
可憐と艶媚!!	(一〇)
決死の「美女スパイ」	(一〇)
老獺なる王者と	(一六)
彼を巡る「六人の美姫」	(一六)
犠牲の血の落穂を拾ふ	(一八)
殉國者となつた彼女達	(一八)
浮ばれぬスパイ群	(二八)
迫る祖國の魔手	(二八)

因果は廻る小車

彼女を殺す彼女の戀……………(二六)

フランスと英國

紳士と美人「スパイ合戦」……………(二九)

女スパイ對女スパイ

前代未聞の「怪事件」……………(三二)

眼で殺す生活の女

「不吉ルイゼ」の物語り……………(三五)

スパイの異常人的性格

女スパイの病的性向……………(三八)

ジャザアの踊り子

大戦の蔭に「死の舞踏」……………(四一)

大奈翁も困つた

「女郎蜘蛛」の怪

「余の辭書には不可能の字無し」と大見得きつたナポレオンの大天才を以てしても、仲々に拂ひ退けることの出来ない苦手のものが二つあつた。と云ふのは外でもない。

海ではネルソン、陸ではイギリス美人のスパイ網である。ナポレオンのエジプト遠征計畫を知つた英國軍部では、僅々二ヶ月足らずのうちに、彼の通り路に當る地中海の島々や、その沿岸一帯にかけて、殆んど完全に近いまでに「女郎蜘蛛」(色仕掛の女スパイ)の網を張りめぐらし、何とかして「コルシカの冒険者」(ナポレオンのニツクネーム)をまんまとひつかけようとしたものである。

英國政府が、こういふスパイ戦略を思ひついたのは、一つには、ナポレオンが「英雄色を好む」の例にもれず、至つての好色家で、既にデュ・コルンビエ夫人、カロリーヌ・ブレッツシュ一嬢、セン・ユーベルチ夫人、デシレー・クラリー嬢などといふ歴々の美人連を相手に、次か

ら次と情事に耽溺してゐるといふ世上の噂にヒントを得たものであつた。

かくて「コルシカの冒険者」は、その遠征の第一歩から最後の一足まで、即ち、パリ、ツ
ーロン、チヴィタ・ヴェキヤ、マルタ、アレキサンドリヤ、シエブレイ、ピラミッド、カイ
ロといふ順に彼の行く處、陰の形に添ふ如く、附けてつけて附け廻されたのである。

その結果、彼の一舉手一投足は、まるで櫛の齒を引くやうに、大小明細もろさずロンドンの
軍令部本廳へ通報されたのであつた。

この娼婦スパイの美しき大群の指揮者は、當時全力を擧げて、ナポレオンを乗せたフランス
艦隊を搜索追跡しつゝあつた、英國艦隊の精銳であるところの「ライオン號」の艦長シドニー・
スミスと、「アレキサンダー號」の艦長ジョーン・パーネットの二將であつた。

この執拗を極めた英國軍部の試みは、さほど豫期通りの成績を擧げ得なかつたが、しかし、
流石のナポレオンにとつても、絶えず掬摸につき纏はれてゐる旅人同様の危険味があつたこと
はたしかに事實である。

x

全くたしかにスパイとして働くのに、一番都合のよいものは、何と云つても女の様である。

女優、オペラ歌手、ダンサー、女樂師などもスパイには持つて來いの商賣であらう。美しい

歌姫は、まづその舞台姿に多くの鼻下長的政治家だの、外交官だの、軍人だのをファンダンに惹
きつけて置いて、それから徐ろに社交上の奥の手を徐々に出すのである。

西洋では、政治家、外交官、軍人などの家庭に仕へてゐる小間使、乳母、下女、女家庭教師
看護婦なども、スパイとして時にはなか／＼馬鹿に出來ない大手柄を立てゝゐるさうである
が、この他、カフェー、バー、ホテル等の給仕女等も云はずもがなといふところであらう。

世界大戦の際、英國の總司令であつた、キツチナー老元帥も、絶えず獨逸の美人スパイ連に
付きまとはれて大弱りしたといふ話である。

かの鐵血宰相ビスマルクの寵を専らにした、あの有名な探偵長であるカール・シユチーベル
博士は、カウラ男爵夫人と云ふユダヤ系の女スパイを操縦して、幾多のボロイ仕事をやつての
けた。

このカウラ男爵夫人といふのは全く絶世の美人で、どんな硬骨な軍人でも、彼女の妖艶な瞳
に會ふと、丸で鉛のやうにへた／＼の柔軟さに變つてしまふので有名であつた。やがて彼女は

シュチペールの密令を含んでパリへ行き、何の苦もなく、フランスの陸軍大佐シツセー將軍を蕩らしこんでクニヤ／＼にしてしまった。

そこで彼女は將軍の妾のやうな生活を送つてゐたが、その間に、將軍の手許にある重要書類の内容を大抵眼で寫し取つてしまつてゐた。勿論これは獨逸側に重要な報告となると同時に、フランス側にとつては、とても大痛手を喰ふ原因とはなつた。

堂々たる伏魔殿

「罪惡の下水溜り」

獨逸に、恐ろしい軍事スパイの魔窟が出来たのは、十九世紀の中頃に、クラウセと云ふ超ヴァンプ型の毒婦が、ベルリンのいはゆる機密探偵本部の命を受けて、ウンテル・デン・リンデンに程近い、ドロテーン・シュトラッセに、堂々たる、全く堂々たる伏魔殿を構へたのに始まると云はれてゐる。

爾來このクラウセの大邸宅は、「罪惡の下水溜り」といふ不氣味な異名を取つてゐた。秘密

探偵本部は丁度蜜で蜂を集めるやうな巧妙極る手段を用ひて、自分の國の一流名士をはじめ、歐洲各國の貴族や、富豪（この中特に製鋼業者や軍需品製造業者を選んで）や、政治家や、外交家や、軍人等々を、この大伏魔殿へ誘き寄せ、彼等の秘密は勿論のこと、その地位や、さては生命までも奪つてしまつた。

クラウセはいつも、小さな毒藥の罌と匕首を胸衣の下に隠してゐた、そして哀れな椋鳥の懷中から、文箱から、或はトランクから、その隅々から洗ひ浚ひ探し出して、苟も参考になるほどの書類や紙片は何一つ残らず本部へ注意深く届けてゐた。

この異常な成績に味を占めた機密探偵本部は、同じドロテーン・シュトラッセ一帯に、クラウセの家と同じ式の豪華な邸宅を二十も増設したので、一時は、この奇怪な邸宅街は、妖艶な獨逸貴婦人？の體臭を慕つて集まつて来る各國の名流名士でごつた返してゐたさうである。

しかしその各邸宅の主婦達の遣口が餘りにも惡魔的であつたので、とう／＼時の在野黨の領袖リヒテル等は、默視するに忍びず、この大「伏魔」事件を政府攻撃の屈強の資料として用ひ議會で大々的に論戰の花を咲かせたといふことである。

可憐と艶媚!!

決死の「美女スパイ」

米國獨立戰爭の際であつた。

フィラデルフィヤを占領中の英軍主力がホワイトマーシにあるワシントンの陣營を奇襲しやうとして準備中、その機密作戦會議を立聞きして、逸早く米軍の斥候長に急報し、ワシントンを全滅の危機から救つた可憐な女丈夫リチャ・ダラーの勇氣と機智と敏捷とは、恐らく、米國民によつて、永遠に語り傳へらるべきものであらう。

同じく米國の南北戦争の際には、北軍がエンマ・エドモンズと云ふ決死の美少女を南軍の陣地深く潜入させれば、南軍も負けじ劣らじとてか、ベル・ボイドと云ふ、これも捨身の美しい少女スパイを放つて、散々に北軍を悩まし、何れ劣らずと女スパイ合戦!! 否ヤンキーガールの意氣込みの程を見せたのは、まことに米國らしい女スパイ逸話である。

一九一五年の七月のことだ。英國の祕密探偵本部へ、次のやうな情報が入つて來た。「目下、

スペインの首都マドリツドに招聘されてゐる、マタ・ハリといふ有名なダンサーの行動に種々不審の點がある」と。そこですぐ電命が飛び、マタハリは嚴重な監視の下に置かれた。

そして、その翌る年、彼女を乗せたオランダ行き汽船が英國に寄港した際、彼女は遂に獨逸スパイの嫌疑者として拘引され、ロンドンで軍法會議にかけられた。取調べは二時間に亘つたが、この海千山千の行動は、際立つた機智と魅力とで、係官の訊問の係蹄を巧みに引き外し兎も角も無罪放免となつて、スペインへ送還された。

その際であつた。係官は懇々と彼女の將來を戒め、「二度と再びかゝる嫌疑を受けぬやう」と、念を押したところ、マタハリは晴々とした微笑を浮べて、「もう決して、このやうな御厄介はお掛けしませんわ!」といかにも殊勝げに誓つたといふ。

しかし、それからものゝ一月あまりもしてからのこと、彼女は今度はスペインからスイスへ赴く途中、矢張り獨探として、フランスで逮捕された。そしてこんどはスパイであることを立證するに足るやうな機密書類を所持してゐたので、媚態も機智も何の役にも立たなかつた。

「名舞踊家マタ・ハリ捕はる!」のニュースは、パリーの社交界に大衝動を與へた。マタ・ハリは當時餘りにも有名であつた。彼女はオランダ人とオランダ領ジャワの土人女との間に生

れた混血兒で、その神祕に満ちた東洋的な藝風は、彼女をして歐洲舞踊團に独自の地位を占め
さしてゐたのである。

軍法會議にかけられた結果、マタハリは聯合軍がとりつゝある攻勢的戰略の内容を探るべく
狂奔してゐたことが判明した。フランス第一流の辯護士であるメートル・エドゥアル・クル
ネーは義侠的に起つて彼女のために熱辯を振つたが、その甲斐なく、判士等の満場一致の決に
より死刑を宣告されてしまつた。

それから彼女は、セン・ラザレの監獄に送られ、そこで三箇月を送つた後、同じ年の十月十
五日に處刑された。この様に三箇月も刑の執行が遅れたのは、彼女と連絡をとつてゐた同類を
つき止める必要上からであつた。

混血兒マタ・ハリの本名は、マルゲリーテ・ゲルトルード・ツエルレである。マタ・ハリと
云ふのは藝名で、「朝の暈」といふ意味なのである。前述したやうに、彼女は、オランダ領東印
度へ來てゐたさるオランダ人とジャワ島の土人女との間に出來た子で、幼い時分に父に連れら
れてヨーロッパへ渡つた。そして生長するに従ひ、一種奇怪な型を持つオリエンタル・ダンス
の演技者として、たちまち非常な名聲を博するやうになつた。

そして、二十才を過ぎると間もなく、マクレオドといふスコットランド系のオランダ海軍將
校と結婚したが、彼女の偏屈が祟つて、間もなく離縁されてしまつた。しかし多情なマタ・ハ
リにとつては、結局その方が都合がよかつたとも云へよう。東洋風の神祕に満ちた、彼女特有
の魔術師的魅力は、思ふがまゝに、幾多の名流紳士を、彼女の前に拜跪せしめることが出來た
ものであつた。

彼女は莫大な収入に任せて豪華な生活をし、何處へ行くにも、趣向を凝らした大した恰好を
して、多くの人目を惹いたが、パリでふと知り合つた獨逸人のスパイと相思の仲になり、遂
にその男の手先となつて、遂に人普外れた大藝當を演ずるやうになつたのである。

しかし、一説によると、幼い時分に父に別れた彼女は、母に連れられてビルマへ行き、佛寺
のお稚兒（舞姫）となつた。そこで彼女は佛教の儀式に使はれる神祕的な多くの舞踏を仕込ま
れたが、元來非常な早熟で、十四才の春、英國將校と勝手に同棲して、子供を二人まで儲けた
が、遂に夫を捨て、女の子を一人だけ連れ、パリへ突つ走つたものだとも云ふ。が、何れに
しても彼女、マタ・ハリは數奇な運命を辿つた女には違ひないのである。

さて、殆んど世界的に有名だつたマタ・ハリの魅力なるものは、一體どういふ類のものであ

つたか。一言で云ふと、マタ・ハリはスパイとしても大した危険な代物ではなかつたと同様、女としても決して美人ではなかつた。同じ世界大戦當時の著名な美人獨探であるアンネマリ・レツセルなどには、勿論及びもつかなかつた。しかし、丈が高く、體が蛇のやうにうねくとし、皮膚は薄黒いながらも一種特有の艶があり、性質は頗る快活で、誰でも惹きつける不思議な魅力をもつてゐた。が何と云つてもマタ・ハリの魅力の中心は、その藝名にふさはしいつやくと輝く眞黒な二つの瞳だつたと云ふ。

いよいよ最後といふ日に、彼女は朝の五時に起されて、その旨を言ひ聞かされた。しかし顔色一つ變へず、悠然として、毛皮の飾りのついた黒服を着け、フェルトの大きな帽子を手際よくかむつてから、護送の兵士に向つて、「ではお連れ下さい」と云つた。

その時、二人の護送兵に引立てられた彼女の後には、義侠の辯護士メートル・エドゥアル・クルネー氏と新教の牧師とがつき従ひ、處刑の場所に當てられたヴァインセンヌの要塞へ行つた。付き添ふてゐる人達はみな、この女のお不思議なほど沈着な態度に、今更のやうに驚かされるのであつた。

牧師が最後の祈りをすゝめると、彼女はしとやかな態度で軽く斷り、やがて要塞の廊の中へ連れ込まれてしまつた。そこには射撃兵の一隊が待ち受けてゐた。その中の一人が、彼女に目隠しをしようとする、マタ・ハリは靜かにそれを拒んだ。そして、「狙へ！」の號令がかゝると、につこりと微笑み、今しも自分の胸に彈丸を射込まうとしてゐる兵士達に向つて、鮮かに接吻を送るしぐさをした。生年三十九の姥櫻とも云ひ、四十二とも云ふ。尙後章に於て今少しく詳しく彼女を物語りたいと思ふ。

間諜マタ・ハリを脚色したと云はれるデイトリツヒの「間諜X27號」を見られた讀者には恐らく生々しい記憶があるであらうが、あの彼女が射殺される光景、それは殆んど事實に近いもので、銃兵十二名によつて射殺されたのであるが、そのうちの一人は彼女の恍惚たる目差しに幻惑されて、氣が遠くなり、十一發だけ放たれたが、なんと、そのうち八發までは全然はづれ只一彈のみが彼女の心臓を貫いて、大地を鮮血に彩つたと云はれてゐる。

或は憎むべきスパイではあつたが、彼女の若く美しい肢體は、野獸のやうな銃兵の心を、最後の瞬間に於てすら魅了せずには置かなかつたものであらうか。かくして一篇の小説よりも數奇を極めた彼女の生涯の短い運命の幕を下したのであつた。遂に巴里郊外ヴァインセンヌの露と消えるまで、彼女を持つ一種特異な客妻が、大戦の渦中に妖しく亂れ咲き、果なく散つた。

老獯なる王者と

彼を巡る「六人の美姫」

一六

これは大戦前哨戦のやうな話である。勿論實際の歐洲大戦よりは可成り前の話であるが、その頃常に、その同盟國であるオーストリアの政情、軍情の探索を怠らなかつた獨逸の有名なアルクス局（軍事探偵本部）は、或時、思ひきつて選り抜きの美人間諜を、半ダース一組としてウイーンへ送つたものである。

やがて彼女達は、「監督スパイ」として派遣されたオットー・ホツホベルグ公の指揮を受けて、とある目抜ききの場所へ堂々たる住居を構へて、よき棕鳥ごさんなれ！と網を張つたが、計畫は忽ち圖にあたり、名うての政治家、外交官、軍人などのお得意筋で千客萬來の盛況を呈しはじめた。

それはとある日の午後であつた。あの道樂好きで有名な奥國の老帝フランツ・ヨーゼフ陛下が御微行で、ひよつこりこの楽しい家へ遊びにやつて來たものである。元來帝は女には目がなかつた。初めのうちは、「これは素晴らしい遊び場所だね！」と中々の上機嫌だつたが、ふと、この謀略に長けた老獯なる王者の頭腦は、本能的に或る種の不吉な豫感を覺えたのであつた。

帝は何喰はぬ顔で、美女の一人を擁し乍ら、彼の胸の中では更に嚴肅にささやいた、——
「こんな貴族もはだしの立派な住居に、六人も妙齡の美人が居て、それがみな恐ろしく理智的な匂を持つてゐて、明けても暮れてもわしの國の第一流の人物ばかり、しつきりなしに訪問を受けてゐる。いや、その訪問客は絶対に地位高い男性に限つてゐる！ふむ、ふむ……」

さて、それからが大變である。一週間と経たない中に、この楽しい家は疊まれ、六人の美姫は虚空へ消えてしまつた。虚空へ——彼女等の姿はそれつきりこの地上からふつとりと掻き消されたのであるから全く神かくしに會つたみたいである。しかし單なる神かくしでなく勿論陰にはこの老獯な皇帝のさしがねの動いてゐたことはたしかである。一箇所に半ダース、これは少々藥が利き過ぎたとも云へよう。

犠牲の血の落穂を拾ふ

殉國者となつた彼女達

世界大戦中に、いはゆる濁流の藻屑と消え失せた殉國者の實例は餘りにも數多いであらう。墓場を掘り發くやうに探ねもとめたら、或は骨を拾ふやうに搜したら、全くそれは收拾もつきがたいことかも知れない。

上品な英國婦人 であつたエデイス・キヤヴェルは、ブラツセルで看護婦學校を經營してゐた。大戦の勃發すると同時に、彼女は夥しい聯合軍の負傷兵を收容する爲に、獨力で私立病院まで開いて、男子も及ばぬ大活動を開始した程である。その中に、人情の常として、彼女も味方であるベルギー軍の諜報係を勤めるやうになり、ベルギー占領中の獨逸軍に大損害を與へたが、遂に事あらはれ、敵の手に捕へられ銃殺されてしまつたのである。

獨逸の美人探偵 であるフェリス・シユミットは、フランス語に非常にたけてゐたので、彼女はしばしば林檎賣りに化けてマルセーユの要塞へ出入りし、兵隊さん達を甘い聲と恰好の

よい肢態とで、ハ、ハ、ハ、しちやつたまではよいが、或る日のことであつた。看視兵の眼を掠めて巨大な大砲を一つ、こつそりスケッチしてゐるところを、突然襟髪を捉へられてしまつた。

そして間もなく、彼女のはち切れさうな健康美に満ちた眞白な肉體は、惜しや、要塞から程遠からぬ燈臺下の射的場で眞紅に染められたのであつた。

或るベルギー娘は 獨軍に占領された住みにくい母國から脱がれる爲に、獨軍の將校から外國行きのバスを交付して貰つたが、行きがけの駄賃に、獨軍の宿營地へ行つて、將來の獨軍の動きについて、重要な消息を握り、その内容を薄い紙に記して、帽子の裏地の中へ匿した。彼女はこうして數哩行く毎に歩哨から呼び止められて、その度に身體検査をされたが、例のバスのお蔭で検査もいゝ加減で済み、次から次と無事に通り抜けることが出来た。

そして、やうやくもうこれが最後の關所だといふ歩哨の屯所へ辿りついた時、えらいことになつてしまつた。歩哨兵はバスに氣をゆるして例の様に通り一遍の身體検査で、「宜しい、通つてもよい！」と云つて呉れたのだが、丁度其處へ來合はせてゐた獨軍の將校の妻が、何と思つたか横合から、「帽子の裏地を調べて見たの？」と、傍の歩哨に入智慧をした。その結果は云はずして餘りにも明白であらう。女の急所を握るもの、知るもの、これ又女也と云はふか！

西部戦線にあつた話 であるが、佛軍の或る部隊は如何にうまくカモフラージュしてゐても駄目、いつも獨軍の飛行機から、極めて正確な爆撃を受けて、泣つ面に蜂のていたらくであつた。その痛手を受けてゐた佛軍の陣地の後方には戦が始まるより、五・六年も前から住んでゐる若い百姓女の家があつた。彼女は子持ちだつた爲、いつも坊やお襦袢をその家の平屋根の上に干してゐた。その色にいつも赤や青や白のものがあつたとて別に不思議とも問題にする程のことゝもならなかつたのは當然である。

ところがである、或る日、何氣なくその家の傍を通りかゝつた佛軍の注意深い一兵士は、毎日見慣れてゐることながら、ふと、その赤や白や青のおむつの並べ方が、どこかしら信號めいてゐるのに氣がついた。さう云へば、物干等へ乾さずに殊更平屋根へべつたり張り附けるやうにしてゐるのも、考へれば變でないでもない。

どうも不審だ。こいつはクサイぞ！ と思つた彼は誰にも他言せず、誰にも氣付かれないやうに、毎日その平屋根に深甚の注意を拂つて監視してゐたものである。そして幾日かたつた後彼はとう／＼容易ならぬ発見をしたのであつた。おしめの並べ方が或る特異な形式を示したと思つてゐると、やがてのことに獨機がやつて来て、その屋根の上空をグル／＼旋回して立ち去

つた。

するとである。その晩だか翌る朝だか、**透視鏡**裡に後方から前進中の増援隊が、鷹に狙はれた兎のやうに散々な空襲を受けたのだつた。

兵士は躍るやうにして上官の處へ駆けつけたのは勿論である。彼は彼の推察の違はなかつた事、彼の想像の見事適中したことを明細に物語つたものである。忽ち若い百姓女は直ぐ引つ立てられて行つた。彼女は健かな體つきをしてゐて、氣立てもよく、附近の百姓や兵隊達の氣受けも極よかつたのであるが、しかし照魔鏡に映つた姿は、紛れもない女スパイの本體であつた。やがて運命の、銃口の前に立つた彼女は、自分をひつかけたうらめしい係蹄が、あの顔なじみのぼんくら者の兵士の眼であることを、果して知り得たかどうかは疑問である。

エヴァと云ふ獨逸娘は 英國の或る名士の家庭へ、行儀見習ひに行つてゐたが、故國へ出した妙な手紙から足がついた。勿論彼女を待ち受けた物は、多くの犠牲者を喰んだ残酷な死の返報と同一であつたとは勿論だつた。

これは東部戦線の出来事 である。ワルソーの「ブリストル・ホテル」といふ慰安の家に見護婦上りの物凄い美形がゐた。露兵仲間に於ける彼女の人氣は兎に角素晴らしいもので

あつた。彼女は、その濃艶なもてなしで、お客の兵士を十分骨抜きにしてから、よく軍の動きやら戦線の模様について、無邪気な、いや無邪気のヴェールを覆つた質問をした。男心の鑑別にかけては、誰よりも自信を持つた彼女は、或る晩のこと、これと目をつけたお客の兵士に、突飛なねだり事をした。それといふのは、彼女が苦心して集めた情報を携へて、獨軍の陣地へ進入して呉れと云ふのであつた。兵士は承知して彼女の部屋を出たが、どつこい、その行先は彼女の指定した方向ではなかつた。彼はその足で早速上官へ密告してしまつた。流石彼女の目利も、男心の刺には氣がつかなかつたものと見える。

或る女流探偵は

フランスの乳賣り娘に化けて、佛軍の塹壕を朝な夕な、「牛乳は如何！牛乳は如何！」と廻り歩いた。彼女の娘々した姿は、戦ひに疲れた兵士達の眼には唯一の慰安だつた。で彼女は、到る處の塹壕で、頸といはず、頬といはず手といはず、いや、時には額に雨のやうな接吻を浴びたものである。ところがである。彼女を巡る兵士仲間の葛藤から、妬みに僻んだ一人が、「彼女はスパイだよ！」といふ加減な中傷をした。そして嘘から出た眞を地で行つて、彼女はとうとう塹壕の一隅に、あたら麗はしかるべき若い身空を一片の骸と化してしまつた。

浮ばれぬスパイ群

迫る祖國の魔手

スパイの危険は、敵に正體を見あらはされることばかりではない。

味方から、裏切りだの漏洩だのと云つた恐ろしい嫌疑を受けることである。そしてその悲惨の程度に於ては、後者の方が遙かに深刻なものがあるやうだ。なぜならば、敵の手にかゝつたたとへ縛り首にされたとしても、祖國ではその人を英雄として、護國の鬼として祀つて呉れるであらう。だが、賣國奴の罪名の下に、われとわが祖國の手にかゝつたのでは、未來永劫に金輪際浮び上ることが出来まい。

スパイの上には性の差別なく、絶えず彼の祖國の眼が光つてゐる。彼が敵國の首都で、自分の樹てた赫々たる偉勳に陶醉しきつてゐる瞬間にも、突如として冷たい祖國の斷頭機のもの凄しい刃が、彼の首根つ子へどつさりと落ちかゝつて來ないとも限らないからである。

スパイは、職能に熟達するにつれて、次第に機微に通じ過ぎて來る。自分が派遣されてゐる

國の機密に通ずると同時に、自國のスパイ組織や軍備の樂屋裏を知り過ぎて来る。そこへ第三國の魔手が延びて、彼が祖國から貰つてゐる給與の幾十倍に當る報酬を以てさそつたとしたらどうであらう。たとへ、彼自身は左様な誘惑に微動だもしなかつたとしても、疑ぐり深い祖國の當事者は最早やその儘には捨てて置きはしないのである。又たとへ祖國に對して裏切りをしなくとも、職務怠慢と見られたり、大きな失策をしたりしたら、もうスパイの生涯は終りと覺悟せねばならない。女も男も、恐らくそれは性の差別による魔手と云はふか返報と云はふか、それは絶対に峻嚴だ。

オルガ・フォン・コツプの手記を読むとこんなことが出てゐる。

マチルデ・ブルムと云ふ女は、祖國から支給された莫大な機密費で英國に土地まで買ひ込み全く居心地のよい他國で平和な余生を送らうとしたが、やがて或時、ロンドンの場末のアパートで咽喉を搔つ切られて死んでゐた。

アブラハム・メルコヴィツチ、これは男だが、彼は「定住スパイ」として數年間パリに滞在してゐたが、どう魔がさしたか、自國の軍機をフランス側へ洩らしてしまつた。さてそのことは勿論すぐ、祖國の獵犬に嗅ぎつけられてしまつた。それから程なく、メルコヴィツチはボ

ア・ド・ブローロンの暖味屋で、兩端に柄のついた銅線で絞殺されてゐたといふことである。

グレーテ・ナツシーといふ女は、奥國の老帝フランツ・ヨーゼフ陛下とうまく近附きになり、その居城のシエーンブルン城の奥深く閨房の人となつた。勿論帝は、この新しく得た愛妾が他國の廻し者だとは、知る由もなかつた。

グレーテはこの老帝の身邊から様々な秘密を引つ張り出して、祖國へ通報し、當局者をファンダンに喜ばしてゐた。グレーテが始終寫し取つてゐた軍事上の機密書類の中には、祖國にとつては餘り益がないが、同じヨーロッパの某國にとつては、實に重大な價值のあるものもあつたのである。

しつかりものであるグレーテも慾の前には眼が眩んだか、その機密書類の寫しを右の某國の大官に眼が飛び出すほど高價に賣りつけた。その金で彼女は、風光明媚な地中海の海岸ニースに廣大な地所附きの邸宅を求め、そこへ引き移つて、出るにも入るにも、すこぶる華麗を極めた二頭立ての馬車や、王侯を凌ぐやうな特別読への自動車を驅つて、全ニースの人々を羨しがらせたりしたものである。

ところが、一夜、彼女の自動車は思ひも寄らぬ人為的な障害にぶつつかつて、彼女も運轉手

も見るも無残な最後を遂げてしまった。

それ等の例は、みな必ず復讐反報せずには置かぬ恐るべき「祖國が遣はした監視スパイ」の魔手にかかった犠牲だと云へよう。

スパイは何時何如なる處にも、この「監視スパイ」のはやぶさの如き眼と、前後左右からピストルや匕首や毒藥の罠を突きつけられてゐる形なのである。

因果は廻る小車

彼女を殺す彼女の戀

スパイ、ことに女スパイが色仕掛けで、相手をひつかける位のことには、スパイ常識のイロハに過ぎないが、その反對に、スパイ自身が戀に狂つて自分の使命を忘れたりしたら、それこそ天罰觀面、命取りと相場が極つてゐる様だ。

リチャ・カシュノフといふ美人は、スパイとして三年もの實歴を持つた腕達者であつた。これは歐洲大戰の前の頃であるが、彼女はやがて祖國の密令を受けて、ウィーンへその妖姿をあ

らはした。目的は塊國陸軍に樞要な地位を占めてゐる某貴族等とお近附きになることだつた。

「お近附きになる」……とその道の人々はこう意味深のことを含む優しい言葉を用ひる。でリチャ・カシュノフは、忽ちお近附きに成功して祖國の當局者を喜ばすやうな幾多の塊國陸軍の機密を手に入れた。がお近附きの度合がだん／＼過ぎてしまつて、とう／＼その貴族の將軍とわりない仲となつてしまつた。

お近附きなら單に親交だけの話だが、これは彼女の魂までも任してしまつたのである。かくて彼女、リチャ・カシュノフは戀の美酒に酔つた擧句、次第に、お里へは不義理な御無沙汰をし出したものである。

或時のことであつた。相手の將軍がちよつと伊太利へ行つた留守中の出來事である。彼女は或る晩、行きつけのカフェーで、一人の非常に恰幅のよい紳士と落ち合つた。そして彼女の住居にしけ込んだと見たは僻目で、翌朝、彼女はベッドの上で永遠に冷たくなつてゐるのを發見された。

明かに云へば、彼女のこの死因は、曰く毒殺。恰幅のよい紳士は、實は祖國からの御目付役に相違なかつたのである。

アドリーネ・マースデンはまだ純な美少女だったが、探偵局に籍を置いて以来、一度も過失なしの好成績だった。しかし遂に魔の國ロシアへ派遣されるに及んで、彼女もまた野望の墓穴を掘ってしまった。彼女の使命は、ペトログラードの海軍省の幹部である某將軍から直に機密を抜き出すことであつたが、不運にも彼女はその魔の都で或るスウエーデンの富豪と知り合ひになり、果てはお圍ひ者になつてしまつた。すると祖國から一通の暗號電報が、ペトログラードの或る藥劑師の許へ飛んだ。程なく、アドリーネ・マースデンはエカテリニンスキー運河に近い自分の住居で急死してしまつた。これはしかし決して病死ではない、毒死である。藥劑氏は彼女の祖國の監視スパイであつたのである。

エテルと云ふ女は、これも祖國の命令で、ベルギーへやられ、ブラツセルの某銀行のタイピストに住み込んだ。全く彼女はシャンだつたので、瞬く間に若いベルギー將校仲間の人氣者になつた。そのうち、どう氣が迷つたものか、その一人と婚約してしまつた。生來弱氣な彼女は變に良心的になつたあげく、或る日のこと、「妾がベルギーに來た本當の目的はスパイだつたの！堪忍して頂戴ね！」と云つて、戀人の膝に泣き崩れてしまつた。戀人の若い將校は、「宜しい、赦してあげるよ、絶対に祕密を守る。その代り、一切打ち明けて呉れなければ困るがね！」

と云つた。そこでエテルは總てを懺悔した。ところが、結婚後三月といふに、若き彼女の溺死體がオスタンドの海岸へ打ち上げられてゐたといふことである。

フランスと英國

紳子と美人「スパイ合戦」

世界大戦直前のこと。

或る朝早く、ベルリンのアドロン・ホテルへ投宿したアンリ・ブリツソンといふフランス人の紳子は、その日の晝飯時にはもう、隣室のブレイフエヤー嬢といふ英國美人と、一緒に食堂へ行くほど仲よしになつてゐた。

ブリツソン氏はすつかりブレイフエヤー嬢に參つてゐたらしく、食事が終ると、葉巻に火をつけ乍ら、「一つチーヤ・ガルテンへでもドライブしませう……」と誘ひかけたものである。すると、ブレイフエヤー嬢は、えゝお供さして頂きますわ」と、直ぐ氣輕に應じたが、「ちよつと部屋へ行つて來ますから……」と云つて、ブリツソン氏を食堂へ殘して、何か取りに二階

の自室へ駆け上がった。が直ぐ戻つて来て、「わたくし、困つたことをいたしましたの！トランクの鍵をなくして、何も出せませんの……」と云つた。すると、ブリッソン氏は、「この中の何れかで間に合ひませんか」と、自分の大事な鍵の束を気軽に貸してやつた。

ブレイフエヤー嬢は喜んで、あたふたと二階へ駆け上つて行つたが、自室へは入らずに隣りのブリッソン氏の室へ入るなり、氏の大切なトランクを開けて、手早く中にある二、三の重要書類を抜き取つた。そして自分の部屋へ姿を消してしまつた。

少し経つと、ブリッソン氏が不審さうな顔つきで上つて来て、自分の室へ入つたが、間もなく眞青になつてそそくさと、ブレイフエヤー嬢の部屋へ入つて行つた。「あなたは私のトランクから、書類を盗んだでせう！さあ、早くそれを返しなさい。でないと、警官を呼びますよ！」と邊りを憚るやうな低い聲で嚇した。しかしブレイフエヤー嬢は、むツとしたやうにやり返した。「まあ、この方は、氣でも狂つたのに違ひない……」そして、いきなりベルを押した。すると忽ち、ホテルの支配人について、私服憲兵の一隊がどやん／＼と入つて来た。

二、三押問答の末、ブリッソン氏は忽ち化の皮を剥がれてしまつた。憲兵の頭は猫が鼠をかちかふ式に、皮肉極まる口調でちくりちくとやりこめた。

「宿帳にあるポルドー市の金物商アンリ・ブリッソン氏とは、ちよいと出鱈目の名前ぢやなくてどうなの？なるほどポルドー市の金物商ブリッソン氏はあなたの叔父君だ。あなたはその叔父さんの旅行免状と、自分の寫眞を貼りつけて来たまでだ。あなたの本名は××××、御商賣はナンシー市の胸甲騎兵聯隊付の大尉さん、ね、さうでせう。遙々こゝへ來られた御商用は、休暇を利用して獨逸の軍機仕入れと洒落たのでせう。もつと詳しく申しませうか。あなたが大尉に昇進したのは去る×年×月×日、あなたの奥さんが亡くなられたのは昨年九月×日、お子さんは二人でせう。それから、あなたがナンシーで乗り込んだ寝台車の番號は、一八、七七四號、さつとこの通りでせう！」

と云つたので、大尉の顔は、泣き出しさうな苦笑ひに變つて行つた。

憲兵の頭は、髯の端を捻りながら、小氣味よげに大尉の頭の尖から足の先まで見下してさて云つたものである。

「獨逸のスパイ組織は、フランスのそれとは少しばかり違ふのだから、その積りでせぬと、大事な體を亡ぼしますぞ！一昨日來い！といふところだが、まあ今度だけは大目に見てやりませう。さあ／＼こんな恐ろしい要素にぐづくづしてゐても仕方がない。直ぐ次の×時の汽車で、

元のナンシーへ歸りなさい。さあ〜急いだ急いだ！」

と。勿論大尉は餘儀なく（神かけて、二度と再びこんな事をしには来ません！）と悄然として誓つた。

やがて大尉は、その私服憲兵連に護送されて自動車で驛へ駆けつけ、將に出発しようとしてゐる汽車へ、投げ込むやうに乗せられた。汽車が動き出した時、憲兵の頭は大尉に向つて念を押したものである。

「ねえ大尉さん、フランス軍人の名譽にかけて、お前さんの誓つた言葉を忘れなさんなよ」とう〜大尉を手玉にとつたブレイフェヤー嬢、彼女こそは、あの名高いアルグス局の主、ガンツ大尉とオルロフ女史の緊急指令を受けたオルガ・フォン・コツプ嬢その人であつた。

女スパイ對女スパイ

前代未聞の「怪事件」

米國の南北戦争の際、ヴァージニヤ州のフェアファックス・コート・ハウスと呼ばれる土

地に陣どつてゐた北軍の一部隊は、部隊長スタフトン將軍以下なか〜に緊張してやつてゐるにも關らず、屢々見苦しいヘマをやらかしてしまつた。そしていつの間にか、軍隊と馴染になつてゐる土地の人間の中に、敵のスパイを勤めてゐる奴がゐるに違ひないといふ評判が立つた。それも、女らしいといふことだつた。

ところが、或晩のこと、前以てその土地へ侵入してゐたらしい南軍の便衣隊の一隊が、まるで忍術使ひのやうな巧妙さで、スタフトン將軍の寢所へ忍び込み、事もあらうに同將軍を生捕りにして引き揚げてしまつたといふやうな、全くこれは前代未聞の珍怪事件が突發した。

勿論これは同部隊の内情に通じたスパイが手引したのだ。大統領リンコーンの心痛、陸軍卿スタントンの憤怒は非常なものであつた。諜報部長ラファイエット・ペーカー將軍は、「瓦を起し、草を分けても、その憎むべきスパイを捕へよ！」の嚴命を受けた。

こゝに、土地の良家の娘で、Fと呼ばれる素敵な美人があつた。彼女は前々から、スタフトン將軍麾下の青年將校達から騒がれ、よくその將校の誰彼と遠乗りに出かけたりして、いかさま目に餘る振舞ひがあつたのである。ペーカー將軍の炯眼は忽ち、この美少女の上に光つた。

けれども、何等彼女を拘引するに足るべき物的證據がない。「女には女だ！」とペーカー將軍

はかう心に叫ぶと、直ぐ辣腕の部下クラーク嬢を呼んで、密旨を云ひ含めたものである。

そこでクラーク嬢は南部から来た田舎娘に扮して、巧みにFに近づき、とうとうその同志に化おぼせた。クラーク嬢を絶対に信頼したFは或る日のこと、自分の寢臺の蒲團の下から、そつと一枚の書附を取り出して、クラーク嬢に見せた。それこそ、音に聞えた南軍の騎兵旅團長ジエームス・スチュアート將軍から授けられた。

「F——を余の幕僚に任す」

といふ正式の辭令だつた。時を移さずFは忽ち逮捕された。そして、その晩のうちにワシントンへ護送されて、そこの大監獄へ投ぜられてしまつた。家宅搜索の結果、スタフトン將軍を拉し去つた便衣隊の一味を手引したのは、紛れもなくFの仕業だといふことが分つた。

スタフトン將軍を手づから縛り上げた便衣隊の頭目モズビーなる者は、襲撃の決行前、三晝夜もFの家に潜伏し、スタフトン將軍の營舎について、士官の詰所や歩哨の位置まで、手にとるやうに調べ上げてゐたといふことである。

ラファイエット・ペーカー將軍と云ふのは、南北開戦の劈頭、自ら敵地深く潜入し、遂に捕へられてリッチモンドへ護送され、南部諸州の大統領ジェファアソン・デヴィスの前へ引き出

されて鋭い訊問を受け、すんでの所で絞刑に處せられるところを、巧みに云ひのがれ、大膽にも監視兵の隙を狙つて脱走し、幾度か死地に陥りながら、遂に無事に生還した驚くべき冒險の記録保持者であり、特にリンコン大統領の信任の厚かつた勇士でもあつた。

眼で殺す生活の女

「不吉ルイゼ」の物語り

女流スパイ!! それは十人が十人まで必ずしも絶世の美人とかトテシヤンであるかといふに決してさうでもない。女流スパイ必ずしも美人に非ずだ。その代り、異性を惹きつける力に於ては、十人が十人まで凄腕だと云つても、誇張ではなからう。しかしこの惹きつける力にも色々な變つた型や種類がある。

かつて、「不吉ルイゼ」といふ異名をとつた獨逸の著名な女間諜ルイゼ・ウエルネルは、輕症の藐視みだつた。たとへ輕症であつても、大體眇といふものは餘り感じのよくないものである。大抵の國々では、いや、特にフランスあたりでは、斜眼の人間は必ず不吉を齎すものだ

信じられてゐる位である。

ところで、ルイゼが藪篋みのために人に好かれなかつたり、或は氣味を悪がられたりしてゐるのなら、話はまるで別なことになるのだが、この軽い眇のために却つてルイゼの魅力が幾倍にも増して、これと眼をつけた異性を、云ふまでもなく他國の軍部や官憲の要人を、ころりころりと參らしてゐたのだから堪らない。眼で殺すと云つても、たゞ魅了とか腦殺とかいふやうな生優しい程度ではない。ルイゼの場合は、本當に相手の命まで奪つてしまつたのである。

X

ルイゼは元來、ベルリンの貧民窟で、しかも犯罪人を兩親として生れた、哀れな娘である。父は殺人前科の持主、母は名うての萬引女であつた。彼女は十五才の時、綱渡りやブランコをする輕業師の一座に加はり、歐洲各地を廻り歩いてゐたが、ロンドンへ辿りついた時、一座はとうとう解散の憂き目に遭つた。その時、ルイゼは、ウエスト・エンド(西區)の或るカフェーで、コンラッド・チンメルマンといふ名代の曖昧屋の主人と知合ひになつた。このコンラッド・チンメルマンが、實は彼女の祖國から派遣されてゐた「定住スパイ」であつたのだ。ルイゼの「眼で人を殺す生活」は、このチンメルマンとの邂逅の時から始まつた。

やがてチンメルマンの指令を受けた彼女は、早速同じ西區のとある曖昧屋に住み込み、引つかゝつた椋鳥の一人である英國の海軍將校をたぶらかし、忽ちチンメルマンが渴望してゐたものを手に入れて見せた。すると間もなく、その將校は、ピストル自殺を遂げた。一旦ベルリンの機密本部へ呼び寄せられたルイゼは今度はウィーンへ行つた。そして、そこでもわけなく一人の偉い將軍を手に入れたが、或る朝、その將軍は風呂場で冷たくなつてゐるのを發見された。次にベトログラードへ姿を現はしたルイゼは、さる太公の寵姫になりましたのも束の間で、僅かに三月といふに、太公は何者かの手にかゝつて非業の最後を遂げた。身邊危しと見てブルツセルへ高飛びしたルイゼは、間もなくベルギー政府の音に聞えた某高官と契りを結んだものである。

この高官は、自國の國防については全く第一人者だと云はれてゐた人物である。しかし例によつて、この國防の第一人者も、ルイゼを知つてから幾月も経たないうちに、脆くも斃れてしまつた。病名は心臟麻痺。

こうしてあつちこつちと殺人行脚をつゞけたルイゼは、今度は一つ骨休めに、ニースへ遊山と洒落た。と見るのは實は壁で、本當は彼女、そこで靜養中の某國の著名な政治家と近づきに

なつたのだ。その政治家は、病氣もほど治つたので、國へ歸つて政務に携はらうとしてゐた矢先だつた。がいざ出發の日になつて、彼は急病にかゝり、二十四時間内に息を引き取つてしまつた。

斯く暗躍した「不吉ルイゼ」の名は、確かに女スパイ史の頁を飾るだけの値打ちがあるらしい。

スパイの異常人的性格

スパイの病的性向

スパイ生活をして居る者は、俳優生活をしてゐるものよりも、更に一層極端な、しかも眞剣な心理的變化を餘儀なくされる。

明けても暮れても、觀察に、推定に、應用に、たゞスパイ的機能だけを傾け盡して、腦髓の偏頗極まる酷使をしてゐる上に、絶えず敵に正體を見露はされはしないだらうか、出し拔けにナイフやピストルでやられはせぬか、または祖國の監視スパイの魔手にかゝつて無殘な最後を遂げるのではなからうか、といった様な、底なしの恐怖や不安や焦燥に曝され通してゐる中に次第々に被害妄想めいて、疑ひ深い、陰慘な病的心理に陥り、それが遂に習性とまでなつて

こゝに恐るべき後天的個性を醸成するに至るのである。

かう云つた傾向は、特に女性のスパイの場合により多く見受けられるやうである。この變性的性向の度が進むと、或は全く、女らしい繊細な感情なんかとつてに癡痺してしまふ。或は狂的なヒステリー症狀を來し、或ひは強烈な刺戟を求めて破廉恥を平氣でやるやうになり、更にひどい場合は、安達ヶ原の鬼婆的心理にまで到達せねば止まぬらしい。

或る女スパイは、無暗やたらと自分の周囲の人物や物事をスパイしたくなり、時々上役のスパイや同僚のスパイ等の行動を念入りに探偵しないと氣が済まないやうになつた。

ヘツタ・リーブクネヒトといふ美人スパイは自國の軍隊が敵國の幼兒達を屠殺してゐる所を、さも面白さうに笑ひ乍ら見物したといふ。

エラ・ラングベルヒと云ふ女スパイは、味方の兵士が敵國の百姓家へ火をつけるのに、せつせと手傳つた。

南北戦争當時、南軍の間諜ベル・ポイドといふ娘は、南部の婦人に擲擲つた北軍の兵卒を、いきなりピストルで射殺したほどの兇猛振りを示したものである。

リタ・ベルゴンと呼ばれる莫連スパイは、同僚のモナ・アムステルといふ女優あがりの女と

角突合ひをしてゐたが、或る時官命を帯びて活動中の阿姆斯特ルを尾行して、とう／＼或るホテルの一室で絞殺してしまつた。

この兇行の本當の動機は、流石に女優上りの彼女だけに、阿姆斯特ルの顔の作りが實にうまいので、ついむら／＼と嫉妬に燃えたのだといふことである。

リゾンといふ獨逸の有名なヴァンプ型のスパイは秀才の譽の高いフランスのウルモ海軍少尉（戦艦「カラビーン」乗組）を一遍に蕩し込んで、はては阿片窟へ連れこんだりして、ふらふらの骨無しにして、一年そこ／＼の間に數萬圓の大金を浪費させ、それから例の奥の手を出してフランスの軍機を漏洩させようとした。

がしかし、このことは忽ち露見して、少尉は官位を剝奪され、終身懲役に處せられてしまつた。その軍法會議はツーロンで開かれたが、法廷に引き出されたリゾンは、情夫ウルモ少尉の悄然たる姿を小氣味よげに見やり乍ら、場所柄も辨へぬ大膽なはしやぎ方をしてゐたさうである。己れの犠牲者に對して、かくまで無情冷酷であるとは、たとへ自暴自棄が手傳つてゐるにせよ。まあ性格破産者と見るより外はないであらう。

又獨探ゲオルグ・ブレイコウの手先となつて捕へられた、リツヂー・ウエルトハイム夫人と

いふ女は手のつけやうのないコカイン中毒者だつた。彼女はデミ・モンデーヌ（娼婦）と何等擇ぶところがなく、ベルリン・ハーグ、阿姆斯特ルダム、ロンドンと、所定めぬ自暴自棄の放浪生活を續けてゐたのである。

ジャヴァアの踊り子

大戦の蔭に「死の舞踏」

前章で約束した、女スパイ史上の妖花、マタ・ハリを今少し詳しく此處に再び登場させよう。

彼女の傳記については、まことに諸説まちまちで、何れをそれと眞は置き難い。

彼女のその華やかなダンスや、笑婦としての辣腕、風のごときスパイぶり、あるひはまた一世の妖婦として、殉教者として非常にロマンチックなナンセンスが傳へられてゐるので、實際重大なる事件において活躍した實録と、世間に流布された作り話とは、さう大したものではないと述べる者もある。

一八七六年八月七日オランダのリーワルデンに彼女は生れた。だから、一九一七年十月十五

日の朝まだき、ヴァンサンスの要塞で、フランス軍に銃殺された時は、満四十一才の姥櫻であつた。

彼女の兩親は、ツエン・ヴァン・デア・ミューレンとアンツエと云つて、いづれもオランダ人とのことである。マタ・ハリがエキゾチックなダンスと筋肉の華想曲をもつて、一時に名聲を論はれた全盛時代の當時、彼女は一般に、南洋のジャヴァに生れて、ジャヴァ人を母とする混血兒だと思はれてゐた。

それからまた、前身はマラバール寺院付の踊り子で、パリの舞臺を彩ることが出来た。その東洋趣味的な彼女の舞踊は、そこから來てゐるのだと云ふ風に思はれてゐた。

彼女がジャヴァにゐたと云ふことは、事實であるが、それは一八九五年三月蘭領東印度艦隊の一大佐と結婚し、新婚早々相携へてジャヴァに赴いたのであつた。夫はスコットランド系でマツクレオドと云つたが、この男は結婚して見ると、驚くべき戰獸的な、アルコール中毒者であることが分つた。

マタ・ハリがスパイとなつたについては、特にはつきりとした理由はないらしいが、その黄金時代を通じて非常に人殺しをやつて見たくてたまらなかつたと云ふことが傳へられてゐる。

夫のマツクレオドは、年中酒の氣の絶えない上に、度々大酒を喰つて來ては彼女を打擲し、臺所の仕事にでも身を入れてゐやうものなら、突然髪を引つかんで引まはすといふ亂暴者であつたが、彼女がなぜこの夫を殺さなかつたかと云ふことは、その後になつて現れた性格から判斷しては、ほとんど説明の出來ぬことである。

x

ガーガレット・ガートルード・マツクレオド即ちマタ・ハリのことであるが、彼女は六年間の不健康な熱帯生活の後、一女マリー・ルイズを携へ、恐ろしい配偶者と共に阿姆斯特ダムに歸つた。それは一九〇一年のことであつた。ジャヴァのデマランに住んでゐた當時に一男を擧げたが、それはまだ嬰兒のうち、マツクレオドの仕打ちに憤慨してゐた土人の下男が復讐に毒殺したと云はれてゐる。それに對してマタ・ハリは法律を楯にとり、その下男を射殺したと云はれてゐるが、それはジャヴァ在住の婦人の行爲としては受取れぬ話ではない。

マタ・ハリはかうして長年の間、夫の壓制を忍んで來たが、彼がしよつちう酒色におぼれてゐるので、一方には相當閑な生活することも出来た。彼女はその時間を利用して、東洋のエロチックな文藝や、宗教的舞踊の研究に没頭してゐたといふ。ジャヴァ人の踊り子の舞踊を見

に行つたことも何んべんだか知れない。その結果、彼女が自分から舞臺を踏むやうになつた時東洋趣味をもつてゐる人たちに對して、自分は小さい時分から、シヴァ神につかへる寺院の踊り子をしてゐたといふことを、まことと信じさせ得るほど完全に、彼女は東洋趣味を體得することが出来たのである。

ところが、一九〇一年から一九〇五年にかけて、脆弱かつた彼女の身體はめき／＼と健康になり、いままでの涙の生活は一變して勝利の生活となり、同時に相當の財産も出来た、苦い経験と憧憬とこそは、いままでのマーガレット・ツエレを溶解し、そこからフレツユな彼女、ジヤヴァ生れの藝術家マタ・ハリ（朝の眼の意）を浮び上らせたのであつた。彼女は幾度もマツクレオドと別れようとしたが、その度に、愚にもつかぬ親戚たちからけしかけられたり、悪口いはれたりした。

ところが一九〇二年八月、マツクレオドはもう一度散々に擲つたり、蹴つたりした擧句、六つになる娘のマリー・ルイズをつれて家出してしまつた。だが、彼女は一世一代の勇氣を振ひ起して訴訟を提起し、勝訴となつた結果、娘を取戻した上に、母と子の二人を扶養させることになつた。マツクレオドは中傷だといつて盛に不平を列べてゐたが、そこへマタ・ハリが一文

なしで困つてゐるといふことを聞きつけた叔母が、家計の援助をしてやらうと云つてやつて來た。ところがどうしたものか、男のいふことを信じて、間もなくマタ・ハリの云ふことを願みなくなつた。今度は小店を開いて相當金を残してゐたマタ・ハリの父の方から援助をしてもらへるようになつたが、そのうちに、父も妙にマツクレオドを憚つて出入しないやうになつてしまつた。その結果、彼女はとう／＼自分から進んで、このオランダの田舎生活のたへがたい倦怠を脱け出し、パリイに出かけて行つて、劇場關係の就職口を探しまはるることとなつた。

x

どんな名優であつても、六年間も引込んでゐれば、名前も忘れられやうし、ファンも離れてしまふに決つてゐる。しかもマタ・ハリはジヤヴァから歸つて來て既に六年、これまで職業として一度も舞臺には立つたことのない彼女、しかもジヤヴァの印象は苦い記憶のほかみな縁遠い過去のものとなつてしまつたこの一九〇五年に、突如慧星の様に、パリイはミューゼ・ギメーの舞臺に姿を現し、一躍滿都の人氣をひつさらつてしまつた。

その成功はまつたく素晴らしいものであつた。

彼女のゆたかな想像力、死者狂、決心、藝人向の本能、それは彼女が選んだ藝名「マタ・ハ

リ」や、自分から手を廻して宣傳したロマンチックな身上話でも窺はれることであるが、これ等のきはめて變質者的要素こそは、彼女を敢然ここまで進出せしめた動因なのである。

人氣の的になつた彼女は、間もなく最負客の間に妖しき春をさゝやく淫婦となつた。それは身分も家柄もよくない、この種の女藝人としては、殆んど避け難い経路であつた。同時にまたセンチメンタルな辯解をまつまでもなく、オランダの賣春窟にくすぶつてゐた棄てられた人妻に、さすらひの女として手取り早くこの華かなパリーの面白おかしい半世界（性の歡樂郷）に乗り出すことを教へたのは、前夫のマツクレオドである。マツクレオドは實際においては彼女の呪咀の的であつたが、彼女のお手製の身上話の中では、すこぶる愉快な役割を勤めてゐた。それによると、彼は眉目秀麗なスコットランド生れの英國士官で、印度駐屯軍に勤務中、寺院の踊り子をしてゐた彼女を見染めてそこを脱け出させ、幸福な結婚に導いた。それから、數年の蜜のやうな結婚生活が続いたが、夫が突然熱病のために急死したので、それ以來乏しい寡婦の活計を、パリーのもつとも華やかな盛り場に出て、異國情調の裸踊りを演じては續けて來たといふのであつた。

殘忍なマツクレオドは、その後も女につきまといつて、いろ／＼難題を吹きかけたが、賢明な彼女は、巧みにこの間を切り抜けて、二十年間と云ふものは、ヨーロッパにおけるもつとも有名な賣笑婦として幅をきかせてゐた。

x

マタ・ハリは恐ろしく多額な金を客から搾つてはゐたが、一九一四年ドイツの密偵となつてからは、十萬マルク以上の財産を造つた。彼女は死ぬまで男を迷はせた妖艶な女だつたので、いつになつても昔のやうな安全な生活に歸ることは出来なかつた。フランス密偵部のいふところによれば、ドイツ密偵としての彼女の番號は「H二十一」であつたが、大戦勃發以後は、Hの番號のついた密偵は作らないことになつたといふことである。

マタ・ハリは、オランダとフランスに於てはじめて世に出たのであるが、その何れに對しても愛國的な感情はもつてゐないと告白した。自分はジャヴァ人であるといふのが、彼女の男をひきつけるとつておきの手であつた。それがなぜドイツの爲にスパイを働いたかといへば、彼女はたゞ、間諜になつてくれと頼んで來たのは、ドイツのひいき客だけだつたといふかも知れない。彼女は、フランスの生活が非常に氣に入つてゐたが、かふいふ點から見れば、冒險に對してカソリック的な興味をもつてゐる彼女を、フランスで働かせようとしたドイツ側の計劃はた

しかに論理的であつたと云へよう。

宣戦の布告されたその晩、マタ・ハリは、ベルリンの警視總監と晚餐を共にした。この會食は、彼女のスパイになる前提として、非常に問題にされてゐるが、そのドイツ人は古くからの友人だつたので、その問題には全然關係がないと見てよい。かつて彼女が、カイゼルの首郷に於て、第一回の公演をやつた時、舞踏の際に衣裳を着けてゐないと云ふ評判が新聞に出たので警視廳に召換され、その男から規則に違反せぬ様説諭を加へられたと云ふ、古い關係があつたのである。それからまた、彼女は、以前フランスの有力な大臣の弟に云ひ寄られたのをはねつけたために、その男に復讐されて評判を墜したのだといふ風評も傳へられてゐる。

X

しかしマタ・ハリは實に卓拔な女であつた。

危険有能な密偵としての素質を豊富にもつてゐる。だが、たつた一つの大きな缺點は、どこへ行つても極めて眼につき易いといふことであつた。彼女を左右するこのドイツ密偵部の巨頭連は、彼女のまたと得がたい完全なスパイ的素質を見て非常に喜んだ。けれどもこれを客觀的に見れば、つまり既往の實例に徴すれば、さう簡単に喜ぶわけにはいかない。なぜかと云へ

ば、踊り子などと云ふ者は、これまでも本來密偵として不向なものであり、それに戦争中を通じて命を落さず働いてもらへるかどうかもわからないからである。

フランスの密偵部では、既に一九一五年の夏から彼女を獨探嫌疑者として目星をつけてゐたといふ。勿論従来もフランスの密偵部でも、地中海その他に活躍する敵側密偵の活躍を充分調べてはゐたが、三ヶ月間といふものは、このマタ・ハリがドイツの密偵だと云ふことを斷言し得る者は一人も居なかつた。

彼女は餘りにも有名な婦人であるから、——ほとんど貴人と稱すべき社會的地位をもつてゐたから、ドイツ皇太子ブルンスウイツク公、オランダ首相ヴァン・デア・リンデン氏等をはじめ、當時歐洲諸國の多數の有力な貴顯紳士と個人的關係をもつてゐたから、その又關係の廣範な點においては、まさにレコード破りといふべく、もしこういふ大立物を檢舉するとなれば、特に慎重な態度と非常な決心を以て臨まなければならなかつた故でもある。

X

マタ・ハリがスパイであることが暴露したのは翌年の一九一六年であるが、彼女はその間、密偵になつて以來出來た軍人や官吏をはじめ、多方面の知合から情報を探り出して、すこぶる

賢明な方法によつて、それを密偵本部に送つて居た。マタ・ハリはフアンのうちで、ある中立國の公使館に勤めてゐる一人の男の友人の手を通じて、一切私信の形で情報を送つた。諜報はすべて外交官の特権のおかげにかくれて、本部に送られた。けれども彼女の諜報のおかげで、フランスの兵士は續々斃れるばかりでなく、一朝曝露した場合には、中立國の義務にふれる重大な問題が起ることを恐れ、その公使館では、遂にある書状を開封して内容を檢めて見た。ところがそれは、特別の暗號を示す秘密の文章になつてゐたのでなんの得るところもなかつた。

丁度その前後であつた。彼女、マタ・ハリがウイツテル行の旅行券下附を請求した事實をフランス密偵部に於てつき止めた。その理由とするところは、前の情夫であるロシアの海軍大佐マロツフが戦争で負傷して失明したために、身の廻りの世話をしてもらひたいと云つて來たからだと云ふことになつてゐた。

マタ・ハリのこの不幸な將校に對する情愛は別に疑ひを容れるところもないが、たゞそこに一つの問題があつた。それは、現にウイツテルに大空軍根據地が建設されつゝあるといふことである。しかもフランス密偵部では、極く最近に、その空軍根據地に關する情報を送れといふドイツ密偵宛の訓令を抑へてゐるのであつた。

そこで今度こそは彼女も、完全に正體を露はすかも知れないといふ見込で、官憲は黙つて旅行券を下附した。けれど、この陥穽を豫期した彼女は、かへつてその裏をかくて、悠々と、相手を愚弄するやうな緻密な注意を拂ひ乍らウイツテル滞在を匆々に切上げてしまつた。

X

彼女が内通行爲をしてゐることはわかつてゐるが、どうしてもその確證を擧げ得ないフランス官憲は、つひに國外追放の處分を行つた。その宣告を受けた時、彼女は、戦争中につかまつた最も卑劣なお雇ひスパイと同じやうな行爲に出て、職業的密偵の本性を露した。彼女は、決してドイツのためになど働いてゐるのではなくて熱心にフランスの利益を圖つてゐるつもりだと言明したものである。そして、自分はドイツ政府の相當有力な首脳部に澤山の知合をもつてゐるから、ステネーのドイツ大本營に潜入して、フランスのために極力秘密情報を集めて來ようとして申出た。フランス密偵勤務のラドー大佐は、その圖々しさに呆れもせず、かへつて彼女を信頼したような風を見せた。彼女は更にベルギーの貴族フォン・ピツシングに對しては、絶對的に睨みがきくからといつたので、早速ブラツセルに行つて、出来るだけの情報を集めてもらひたいと頼んだ。

彼女の出發に際して、ラドーは六人のフランス側の密偵の名前を授け、必要の場合にはこれらの者と聯絡を取つてもらひたいと云つた。この六人と云ふのは、どの報告にも不確實な馬鹿げたことを書いてよこす連中なので、パリに於ては前から注意人物になつてゐた者ばかりであつた。ところが、彼女はベルギーに入る早々、その六人の名前をドイツ側に密告し、そのうち一人を立ちどころに銃殺させてしまつた。

この密偵は、最近ほとんど報告をよこさなかつたし、稀によこしたと思へば、ドイツの爲に手加減した報告ばかりだつたので、フランス側はその理由について不審を抱きはじめてた。たとへドイツが間諜として處刑したとは云へ、この男はたしかに二股かけた密偵であり、正確な情報をほかの交戦國に賣つてゐたに違ひない、といふ結論に達した。

其後間もなく、英國側のベルギー人スパイが一人の女のために、ベルギーに侵入したドイツ軍に賣られたことが判明し、彼女の行動はいよゝ鮮明になつた。英國の密偵部もかねてからマタ・ハリを捕まへようと思つてゐたのだが、その時早くも彼女は裏をかいて高飛してしまつたのである。

彼女はいつまでもフランス側のスパイの風をしてゐるのにたへられなくなつたので、オラン

ダ、英國經由でスペインに向けて出發した後であつた。かねてオランダにも配置してある英國側の密偵から警告を受けてゐた英國の港務官憲は、戦時警察廳に召喚取調べをさせる爲に上陸を許可し、ロンドンに入らせた。果然戦時警察廳に召喚された彼女はラドーの訊問を受けたが、いたつて平氣で、英國内で密偵の仕事をする爲にやつて來たことを戦時警察廳官ページル・トムソン卿に對して承認した。だがそれはドイツの密偵部のためではなくて、英佛の聯合國のためだといひのがれをした。こゝに至つては彼女の鐵面皮も極まれりといふべきである。ところが英國當局はそれに對してすこぶる寛大な處置を取り、たゞ國際的紛争を惹起させぬやうに注意を與へただけで、スペインの旅行の繼續を許可した。マタ・ハリはトムソン卿の立派な勸告には感謝したが、豈圖らんや、マドリッドに到着した彼女は、早速ドイツ大使館付武官であるフォン・カール陸軍少佐及び同じく海軍武官フォン・クローンの兩名と聯絡を取つて、大活動を開始したのであつた。

x

そのうち彼女も、多くの他のお雇ひスパイと同じやうに、ドイツ密偵部の豫算に取つては相當の重荷になり、同時にまた、眼に餘るやうな行爲をするやうになつたものらしい。フォン・カ

一レ少佐は「即時パリーに歸れ、スペインに於ける活動に對しては、中立國公使館勤務の彼女の友人を通じて一萬五千ペセタの報酬を支拂ふべし」と云ふ無線電信の本部命令を彼女に傳へた。そこでマタ・ハリは再びフランスに入つたがそれが彼女の最後にならうとは神ならぬ身の知る由もなかつた。

マドリツドからパリーに直行し、モンターニマ街のある小さなホテルに投宿してゐた彼女は、一九一七年二月十三日、つひにフランス官憲の手に逮捕された。嚴重な取調べを受けた後、身柄は直ちにサン・ラザールの監獄に移されたが、彼女が容れられた監房といふのは、かつて夫に對して獨探の嫌疑をかけたファイガロ新聞の主筆を射殺した有名なカイヨー夫人、及び獨探嫌疑者のシユタインハイルの入つてゐた監房だと云ふのも、あるひはいみじき因縁ではなかつたらうか。

その年の七月、彼女は軍法會議に引出され、二十四日、二十五日の兩日にわたる審理の結果、もろくも遂に死刑の宣告を受けたのであつた。

今評判の十錢文庫

送料一部二錢
切手代用は二錢増

頭山滿翁著 重大國事の秘密を語る	森本澄夫著 社會常識讀本
東亞書房編 二・二六事件真相の真相	大澤光幾著 西園寺公望
山門王吉著 一讀鬼氣妖奇怪談集	秋月正雄著 列國は日本をどう見る
太田義孝著 財閥功罪史	田淵茂著 靈界物語り
白木屋專務 立身出世虎の巻	時田英雄著 世界の起源と終滅
山田忍三述 世界珍奇怪奇見世物	南城政夫著 税金から見た長者番附
奈緒 順著 世界珍奇怪奇見世物	山門王吉著 怪奇犯罪實話集
黒田正隆著 極東の今日戦争か平和か	東亞書房編輯部編 皇國軍人に懃ふ
海南隱士著 明日の世界	須山滿州男著 風雲を孕む外蒙古
岡山啓之助著 戦線に躍る日英米の勝敗	五島富士夫著 國際ニユリス世界各國珍聞奇聞集
城南山人著 東日と讀賣の暗闘	滿蒙事報社編 謎の秘境・蒙古の全貌
川上康吉著 誰にも出来る貯金法五十種	奈緒 順著 活社會のからくり
内藤伸二著 財づる物語り	中村武郎著 傑物の足跡
野村 繁著 横から見た華族生活	

337
1120

<p>滿蒙事報社編 定價五十錢 (送料五錢)</p> <p>滿洲 官費 學校案内</p>	<p>滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料三錢)</p> <p>小資本で 出 來 る 滿洲の職業 百五十種調べ</p>	<p>滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料二錢)</p> <p>人を求むる新大陸は招く</p> <p>滿洲の就職手引き</p>	<p>滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料二錢)</p> <p>蒙古の全貌</p> <p>謎の内蒙古 秘境外蒙古</p>
---	--	--	---

砲火の裏に踊る (定價 十錢)

昭和十二年二月廿三日印刷
昭和十二年二月廿五日發行

著者 牧山 允
發行者 角田 恒
印刷所 東京市芝區三田四國町二ノ五八
東京市芝區三田四國町二六

不許複製

發行所 **東亞書房**
 總發東京八八三八〇番
 電話 三田 三九八九番

鐵道各驛ホームスタンド一手販賣
鐵道保養會

高倉 晃著 斷乎戰ふべし	河西哲夫著 素人でも出来る菊の作り方
城北隱士著 昭和快傑傳	金井勉著 競馬必勝寶典
村田和雄著 迫る歐洲の大戦	黒田正隆著 噴火山上に躍る人々
奈緒順著 世界の謎	高倉 晃著 軍事探偵血闘
森村辰雄著 無産黨は何處迄伸びるか	黒田正隆著 世界の大革命來る
太田義孝著 郷誠之助の正體	若山草二郎著 趣味と知識の旅行案内
藤原達策著 現代親分子分物語	山本敏彦著 警視廳が捜してゐる人々
山門王吉著 異色五人女性	高木梧郎著 社會指針人生案内
小谷乘仙著 現代佛教は何處へゆく	南城政夫著 近世成金物語
國際研究會著 膨脹日本の異變	中村武郎著 國士秘話
大友莊三郎著 伏魔殿を發く	蒔眞三郎著 今日の世界を動かす五人男
川部眞次著 次期政權の展望	村田和雄著 日本の假想敵は何國か
沼上良太郎著 オリンピック競技記録	中川正夫著 海兵珍談集
田島俊一著 官債政治に迫る	片山哲平著 映畫スター裏の裏

早くの求め 全國書店で販賣して居ります
賣切れの際は直接本房へ御注文

下さい

東亞書房



東京

東亞書房

發行